

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990100257		
法人名	有限会社 すみれ		
事業所名	認知症対応型共同生活介護施設 グループホーム すみれ大寛の苑		
所在地	栃木県宇都宮市大寛2-4-1		
自己評価作成日	平成23年9月5日	評価結果市町村受理日	平成23年11月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成23年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H23年4月に開所の新規事業所であるが、会社自体3つ目の介護施設である。グループ内の施設から移行された入居者の方もおり事業所としての連携も密に取り入居者が安心して生活が送れるよう支援をしている。また、都市型のグループホームではあるが、地域の方々の協力が多々あり自治会活動にも参加させて頂き、近隣小学校の運動会や地域の盆踊りに招待等地域住民として受け入れて頂き、共存・連携の関係が出来ている。ホームの方針として地域から外へとの事で外出支援に力を入れ外部との交流等力を入れている。また、入居者個人の尊厳に配慮し徹底した個別ケアの実現に向けた取り組みを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市内の中心部にある典型的な都市型の施設である。当ホームでは、祖父や祖母が「住み替え」をしたということを基本的な考えとし、職員もこの方針に共鳴し日々のケアに当たっている。また、地域にとけ込むこともこのホームの特長の一つであり、避難訓練に近隣の人々が自主的に参加したり、地元の夏祭り等に招待されるなどの関係が出来ている。さらに、1階にはコミュニティールームがあり地元の方の利用を呼びかけている。今年四月の開所であるが、看取りについても前向きな考えをもっており、今後看取りのマニュアルを、かかりつけ医の協力を得て作成することを期待したい。日々の散歩は勿論のこと隣県への小旅行を企画・実施するなど外出支援にも積極的なグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をユニットの見やすい場所に掲示し常に意識し共有している。「高齢者の尊厳を大切に、人権の尊重を胸に、自立した生活への支援を実施します」を掲げ、常に入居者優先・生活支援が出来るよう努めている。	法人内三施設共通の基本理念だが、新人の職員には、入社時に理念の意味をかみくだいて教え、その後毎月の全体会議などで趣旨の徹底を図っている。職員は、身内が住み替えをしたつもりで、日々のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会活動にも参加し近隣の商店にも買い物に行ったりと顔馴染みの関係を築いている。また、ホームのホールを開放し地域の方が気兼ねなく訪問出来る場の提供をしている。自治会活動・地域小学校・コミュニティーセンター等より様々な活動への招待があり地域住民との交流を深めている。	母体の社長や当ホームの施設長が地元に住居し地域の人たちと顔なじみであり、十分なコミュニケーションがとれている。地域の敬老会、夏祭り、小学校の運動会などにも招待されている。また、建物内1階にコミュニティールームを設置し地域の人たちに開放している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	内覧会等地域住民の方に来所して頂いたり相談等時に認知症介護の説明・アドバイス・印刷物の配布を行い理解して頂いている。また、地域包括センターと密に連携を取っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に偶数月に開催しており、参加者は、家族代表・民生委員・自治会連合会会長・老人会会長・包括支援センター職員。パワーポイントを使用しホームでの取り組みや活動報告、入居者の生活状況等を報告し活発な意見交換をしている。また、参加者からの助言を参考にし、活動に生かしている。	構成員には昔からの知り合いも多く、当ホーム主催の敬老会を市内のホテルで開催したらどうかなど活発な意見が出されている。市の職員は入っていないが地域包括支援センターの職員に情報をもらっている。	構成員を固定することなく、災害などの議題を予定するときは、地元の消防署(団)や警察署の方の出席を要請することや、外部評価については報告だけでなく内容について議論することなどを今後期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者及びセンター職員と日常的に連絡を取っており適切なアドバイスや協力・情報提供を受けている。地域包括センターの方々と情報を交換しサービスの取り組み・相談等し指導を受けている。	申請や更新の業務で市に行った際、市の担当者から介護保険に関する情報の提供を受けるほか、当ホームからの相談についても積極的に対応してもらい、親密な関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務マニュアルを作成し職員全体に周知している。現在までに身体拘束は行っていない。また、入居者の権利擁護や身体拘束に関する研修会を今後考えており個人の人権を無視した介護にならないよう指導している。	開所前から身体拘束についての研修を行い、趣旨の徹底を図っており、開所後も言葉による拘束などについて、その都度管理者は職員を指導している。玄関は自動ドアで施錠はしていない。無断で外出する入居者も現在のところいない。	

グループホームすみれ大寛の苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての虐待(身体的・言葉によるもの等)が事業所全体で無いよう各代表及び職員が心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在入居されている方で成年後継人を利用されているかたがいる。また、職員には制度の必要性や理解は管理者が説明をし周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際、契約書及び重要事項説明書等を管理者が説明している。質問等は常時受け付ける旨を説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気兼ねなく相談・要望が出せる様家族との話し合い・報告を密にし信頼関係を築くよう努めている。また、家族来所時や電話にて近況を報告すると共に要望等を傾聴している。また、職員が共有出来る様に報告ファイルを作成している。	行事終了後、入居者にインタビューする方法で意見を聞いており、ユニット合同で食事をしてもいいのではいかなどの声が出ている。家族等には「入所」ではなく「住み替え」という思いを持ってもらい、双方が気軽に話し合える関係作りが出来ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施している全体会議に管理者も出席し意見や提案について話し合っている。また、常に現場に介入し、OJTを実践しながら職員の話や意見等を聴き運営に反映させている。	日々のケアや行事計画について、ボトムアップ方式を心掛け、職員の意見を尊重するようにしている。職員からは、洗剤の使い方や日々のケアについての具体的な意見が出され、実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の能力を見極め指導しモチベーションを高く持てるよう努めている。また、労働時間・環境等も話し合いにより決めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者がOJTを実践し指導している。また、グループ事業所での研修もしている。今後は外部研修にも積極的に参加したいと考えている。		

グループホームすみれ大寛の苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の会員にもなり会主催の研修会・交流会にも参加し他グループホームとの情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談時に本人の生活していた自宅等に訪問し馴染みの関係を築き生活環境を把握し、アセスメントを作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や心配事等をご家族や担当ケアマネ等に詳細に伺い、不安が払拭出来るようケアを実施し要望には出来る限り男応じるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望・ご家族の要望を勘案し入居の必要性等の判断も含め他介護サービスの説明もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭生活を基本に、掃除・洗濯・調理・買い物等共に行い共存の立場を念頭にしている。また、職員がメインではなく常に入居者の方がメインで生活している支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には通院等で協力して頂き共に体調の変化・認知症症状の進行等話し合う場を設けている。また、来所時には個別で落ち着いた話せる場所の提供もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が今まで利用していた美容室や病院等に現在も利用している。また、個別の支援で墓参りや要望のあった場所に出掛ける支援もしている。学生時代の同窓生の訪問や、今まで住んでいた地域のご近所の方・友人の訪問もある。今までの関係が入居により損なわれない様支援している。	近隣からの入居者が多いこともあり、当ホームの近隣にある床屋、コロッケ等を売る肉屋、米屋などとの関係が継続するよう支援している。また、同級生が訪問することが多い。墓参りを希望するときなどは随時対応している。	

グループホームすみれ大寛の苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係を把握する事は勿論の事で職員が間に入る事で関係が悪化・孤立しない様見守りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の所契約終了の事例は発生していないが、今後あった場合、退居後であっても常に相談等にのり状況把握する事をご家族に話して行きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのコミュニケーションを図りその中で自ら希望を示す方にはそれに沿う様支援し困難な方には家族等との話し合いの中で本人の気持ちに沿う代弁者となり支援している。共存・共生の支援をしていく中で得られる情報は沢山あり個々の意向に沿うよう本人本位に努めている。	入居者からは率直な意向が示されている。絵が好き入居者からは県外の美術館に行きたい、以前ゲートボールをやっていたが入居を機会に再開したいなどの意向には出来る限り対応している。また、馴染みのコロケが食べたいなどの、すぐに対応できる要望には迅速に対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた馴染みの家具等を持参して頂き居室の設えも極力今までと変わらないように努めている。また、担当だったケアマネやご家族から		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活全般に於いて入居者のペースに合わせた支援をしている。本人の能力・心身の状態を観察し必要時には病院等の受診もしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のユニット会議にて入居者の状態報告・課題の抽出等をし突発的な変化があった場合はミニカンファレンスを行いご家族・Dr・管理者に相談や報告をし計画に反映させている。	家族等の関係者からの情報収集やユニット会議での担当職員の意見を基に、在宅時の暮らしを反映し、入居者の視点にたった個別の介護計画を作成している。設定期間での見直しは勿論、急変時には臨機応変に対応している。	本人や家族等からの新たな要望や状況の変化がなくても、家族等の心情を察し、ホームでの生活の中で利用者本人が喜怒哀楽を感じることが出来るような支援計画作りを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状態を個別支援記録に残し普段と異なった様子や行動等があった場合、記録すると共に勤務の職員で話し合い早急に解決出来る事案はケア方針を変更や決定をしている。		

グループホームすみれ大寛の苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを徹底しているので入居者やご家族のニーズに対応して柔軟な支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加や通いなれた病院・美容室等へ行き外部との交流・馴染みの関係を確立している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に今までのかかりつけ医へ受診をお願いしているが、本人・ご家族の意向を聞き話し合いにより決定している。受診は基本的にご家族をお願いしているが、職員も同行させて頂き、近況の報告をしている。また、事業所の近隣にホームDrがあり緊急時の対応他科受診の相談も行って頂いている。	以前からのかかりつけ医を継続する入居者が多いが、当ホーム近隣の医師が往診してくれることもあり、変更する方も増えている。受診は原則として家族に行ってもらっているが、家族の要望があれば職員が同行し最近の状況を報告することもある。また、地域にある歯科医師や調剤薬局にも協力して貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループ事業所に看護師が所属しており密に連絡が取れる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院等になった場合、病院を訪問し医療関係者及び家族・ソーシャルワーカーと密に連絡を取るよう努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・看取りになった場合速やかに、本人・ご家族・主治医の意見・要望を聞き・尊重し出来る限り気持ちに沿えるよう支援していく。また、主治医の意見をもとに繰り返しご家族へ説明や同意を得ておく体制を整えて行く。早い段階で本人・ご家族・主治医と相談し今後の意向を確認していきたい。また、入居時等に同意を得られる指針の説明・意志の確認も行っていきたい。	入居者や家族からの要望があれば、看取りまで行う心づもりと、その覚悟が出来ている。同意書の様式や職員の看取りに関するマニュアルはまだできていないが、今後検討する。	職員の看取りに関する具体的なマニュアルを、かかりつけ医などの医療関係者の助言を得て作成するほか、入居者や家族と同意書を取り交わすことも重要であるので、同意書の様式などの作成について今後検討することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応マニュアルを作成してある。また、ヒヤリハットや事故報告書等を全体会議で発表し発生原因・要因を抽出し解決策を話し合い対応している。		

グループホームすみれ大寛の苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域自治会にも加入し災害時等の協力は得られている。また避難訓練は9月に実施予定である。ホーム全体にスプリンクラー・消火器・自動警報装置が設置され、任意ではあるが民間の警備会社とも契約し各ユニットには発信機(24h対応)も常設している。	避難訓練は9月に実施し、近隣の方は顔馴染みということもあり協力してくれている。また、2回目は夜間想定で実施する予定である。3月の地震を経験したこともあり、水や米などの備蓄も行っている。さらに、停電を考慮してガスコンロを用意した。	地域の方の協力が得られるのであれば連絡網の中に組み込んだり、或いは地震などの停電の際の職員の対応方針や家族との連絡方法などの検討を今後行うことを期待したい。その際、事業所から地域への啓蒙活動等も発信していくことも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシー・羞恥心に細心の配慮を心がけ排泄の介助・入浴の介助等では、個別の対応を実施している。個々の人格を尊重し人生の先輩である事を胸にケア全般・言葉使いには丁寧に対応している。目線を同じ高さで対応するようにしている。	人生の先輩として尊重しており、呼び方は「苗字・さん」としているが、家族や本人が希望する場合は「名前・さん」で呼んでいる。また、職員は、どんな場面でも入居者が自己決定できるような言葉かけをするように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で自己決定が出来る様な声かけ支援を行っている。また、個別で落ち着いた話が出来場所・空間作りもしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで生活して頂いており職員主導にならないように努めている。また、個別支援も行っており入居者の希望に沿った支援も行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の今までの生活歴を加味しご家族と相談し化粧をしたり衣類の買い物に出かけたりしている。また、美容室は通い入れた所に行く方がほとんどである。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を勘案しメニューを作成したりその日の天候や入居者の希望により変更する事が多々ある。また、外食や出前も取り入れていて家庭で生活をしているような支援をしている。調理や配膳・片付けは入居者と共に行い生活リハビリの一環としている。	献立は栄養バランス、旬の食材等を踏まえて作成しているが、入居者の好みを尊重して変更になることもある。食材は職員が近隣のスーパーで買っている。入居者は食器洗いなどを手伝ってくれている。また、外出する際は外食をするのが楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量やカロリーバランス・食事の形態にも配慮し食事の提供を実施している。水分補給は常に自由に摂取できる体制を取っている。		

グループホームすみれ大寛の苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の自尊心を傷つけないように毎食後口腔ケアを実施し職員も共に行い見守りや介助を行っている。また、清潔保持の為洗口液を使用してる方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しプライバシーに配慮しさりげない声かけ・誘導をし排泄の失敗を軽減している。また、排泄の個別記録も残し排泄状態を明記している。個別記録を残す事により個々の排泄パターンが把握でき失敗を防ぐ支援が行えている。その事により、RHパンツから離脱し布パンツに移行出来た事例もある。	排泄パターンに応じた個別の支援を重視しており、羞恥心や不安を軽減する配慮をしたことで、ポータブルトイレからトイレへ、リハビリパンツから布パンツへと移行でき、入居者も職員もそのことが自信につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事で繊維質の多い食材の提供や日々の生活の中での運動等を実施している。また、Drの指示により下剤を服用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調や希望に沿って朝から入浴出来る体制を取っている。本人の体調や希望に沿い週2回以上の入浴を実施している。入浴しない方は清拭や足浴・座シャワーを使用し支援している。	毎日入浴できる体制になっているが、入居者の体力的なこともあり、一日おきに入浴している入居者が多い。浴場は座シャワーができ、一人で広々と入浴出来る。入浴剤等を効果的に利用し、季節感を取り入れる配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣やリズムを把握し就寝時間を決めず本人のペースで就寝して頂いてる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定時薬ら臨時薬・点眼薬の処方箋を個別のファイルに閉じ、内容・用法等を業務日誌や連絡ノートに記載し把握出来るようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の役割を見出し「出来る」と言った自信や達成感を感じて頂くよう支援している。また、カラオケやお茶教室も開催し気分転換も行っている。		

グループホームすみれ大寛の苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別で買い物や散歩・外食等に積極的に支援している。また、7月にはご家族も一緒に参加して頂き他県へのバス旅行も実施出来た。10月にもグループ事業所と合同で他県へバス旅行に行く予定。定期的ではなく、その日の入居者の希望に応じ、外食やお茶・買い物をしに外出している。	日常は、近くの寺や中央公園等に出かけている。当ホームの屋上でテーブルを置いて、お茶を飲むことも出来る。また、茨城県にバス旅行に出かけたり、今後も東京に観劇に行く計画をするなど積極的に実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中には本人の希望により財布を持参している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望により携帯電話を所持している方もいる。また、ご家族や・知人と連絡を取りたいと申し出があった場合職員が間に入り取り次ぎを行う支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは五感を感じて頂くようオープンキッチンになっており食事の準備時には香りが流れるようになっている。また、照明も暖色であり優しい光で心地よい物になっている。リビングにはソファが置かれ自由に使用出来る様になっている。玄関には職員手作りの季節の飾り物があり、さりげなく季節を感じさせる装飾になっている。	共用空間は清掃が行き届き、内装や照明、温度管理も入居者が居心地良く、安心感のある場所になるよう工夫されている。特に照明は暖色で、建物内が暖かい雰囲気になっている。また過度な飾り付けや装飾品もなく、温かみのある家庭的なものになっている。不快な臭いもなく廊下は広めで、快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階の共有スペースや屋上があり、入居者同士・ご家族がゆっくりとくつろげる空間スペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた家具類寝具類の馴染みの物を持参して頂き居室の設えも今までと余り変わらない配置にして頂き混乱の無いよう生活出来る様支援している。馴染みの物や位牌・家族の写真・観葉植物等を飾りその人らしい居室空間になっている。	当ホームの備え付けは、つり戸棚だけで、ベットやタンスなどは入居者が使っていたものを持ち込んでいる。また、入居者によっては位牌、家族の写真、絵画などを持ち込んでおり、一人ひとりの個性ある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつ自立した生活を営んで頂く為自身の持てる力を生かし生活が送れる様な支援を行っている。		